

# おおはらぼん



## コロナ時代に向けて これからの新しい社会の 可能性を生み出すために 地域包括ケア推進研修会を終えて

地域支援事業委員会  
島根大学医学部附属病院 石田 史穂

2020年12月13日（日）株式会社TRAPE 代表取締役 鎌田大啓 先生（作業療法士）をお招きし「コロナ時代に向けてこれからの新しい社会の可能性を生み出すために」をテーマに地域包括ケア推進研修会をWEBミーティングアプリZOOMにて開催しました。

### ◆研修会報告

当日は県内の作業療法士だけではなく、千葉、大阪、長崎など全国各地より、多くの医療・福祉従事者の方にご参加いただきました。鎌田先生にご講義いただいた後、グループワークを行い、参加者で講義内容の理解を深め、各地のコロナ禍での地域支援事業の実践方法の工夫を共有することができました。



「新しい社会の可能性を生み出す」というテーマでご講演いただきました。コロナ禍で通いの場や個別支援会議などが制限されている中で、私たちが「できること」を考えるヒントを頂きました。

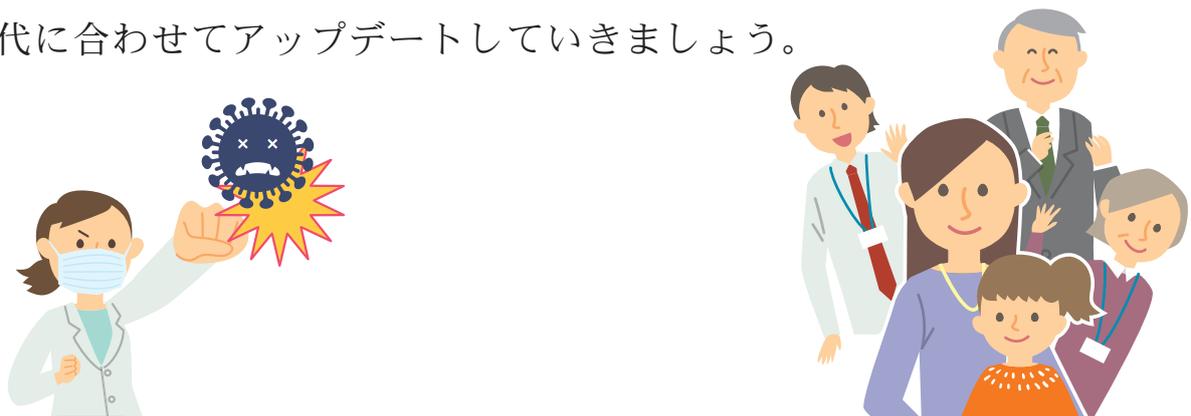
新型コロナウイルスの蔓延で我々の生活の外部環境の変化が驚くほどのスピードで起きていることを示されました。この社会環境の変化の複

雑性が増し、予測困難な状況を以下の単語、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとってVUCA（ブーカ）時代と言います。このVUCA時代、私たちは地域住民へのケア方法を変えていく必要があります。印象的なことだったのは、本人を中心とした多職種連携を行っていた「Forのケア」からストーリーを中心として本人を含んだ家族、周辺住民、企業などが共創・協働していく「Withのケア」をすることでした。本人も協働して地域を共創していくという考え方はとても新鮮でした。

また、通いの場の意味を個人、環境、活動に基づいて考えました。コロナ前では単に運動の場として成り立っていた活動もコロナ禍では、意味に沿った提案、提言をする必要が出てきました。通いの場の作業分析し、その地域、対象者に何が必要なのかを考える。HOWありきではなく、WHY（疑問）からHOW（方法）を見出す思考順序を用いてサポートを行う必要性を示されました。

参加者の皆さんはコロナ禍でも様々な工夫をしながら地域支援事業を行っていらっしゃいました。当委員会からも浜田地域（リハビリテーションカレッジ島根 柿本将平氏）、隠岐地域（隠岐島前病院 浜田拓史氏）の実践を報告しました。個別支援会議（ZOOMでの実施）の継続や地域住民への運動機会の提供（ケーブルテレビでの放送など）など各地域の工夫が共有できました。

最後に、本研修会では多くのキーワードが挙がりましたが、今まで当たり前だった事業を、一旦「ホワイトキャンパス」にして、今の地域の状況にあったサービスを考えることが重要であることは強く印象に残りました。私たち作業療法士も専門性のアップグレードだけでなく、VUCA時代に合わせてアップデートしていきましょう。



『リモートフェスタ 2020 中間報告』

事業部員 山本豊和

前号にて、今年度事業部にて企画・開催した『リモートフェスタ 2020』についてご紹介させていただきました。「元気になれること」をテーマに写真とエピソードを一般の方々から広く募集したところ、沢山の写真やエピソードが寄せられました。募集にあたっては、ブロックメールの配信や、広報部の皆様にご協力いただいてホームページを活用させていただきました。ご協力本当にありがとうございました。

事業部では、現在冊子の内容や構成を再検討し、春頃の冊子発行に向けて準備を進めています。今回の冊子は、「大切な意味のある作業」に注目した内容になっています。冊子を作製するにあたって、コロナ禍による環境が大きく変化している今、「作業とは何か」という作業療法の原点に立ち返り、作業療法士の専門性について考えさせられました。応募のあった沢山の写真やエピソードには、それぞれ応募者の方々の思いや背景が詰まっていると思います。どのような構成にまとめれば皆様の思いがより伝わるのか、事業部内でも協議を重ねながら作製しています。この冊子が、多くの方々に自分の「大切に意味のある作業」に気づききっかけになれば嬉しく思います。そして、「作業療法士」の理解に繋がることを願っています。

冊子は、応募いただいた方々に贈ると共に、県土会の取り組みの普及啓発の媒体として、県土会ホームページへの掲載、学校などの教育機関や行政への配布を行いたいと考えています。また、応募のあった写真を集めてモザイクアートを作製し、「作業療法フェスタ 2021」にて展示する予定です。

疲れた時、不安な時……、冊子を開けば皆様の元気に出会える、皆さんの笑顔に繋がる冊子になるように、これからも引き続き事業部員皆で準備を続けていきたいと思っています。皆様には冊子の完成を楽しみにお待ちしております。



# (専門部) IT 支援チーム コラム

一緒に活動する仲間を募集しています！

興味のある方は「shimaneit@gmail.com」までご連絡ください



## 視線入力装置をご存じですか？

西部島根医療福祉センター 引地 晶久

世の中には障害を持つ方の生活を豊かにするため、したいことを実現するための様々な支援機器があり、その機器を操作するためのスイッチも多種多様です。しかし、身体の運動が困難で、機器の操作は難しいとあきらめてしまうことがあります。そのような状況でも瞳は力強く、しっかりと物や人を見ることが出来る力を持っている人は少なくありません。視線入力装置は新たな機器の操作方法のひとつとして近年注目されています。

さて、実際に視線入力装置はどんなことができるのでしょうか。視線入力装置とは、パソコンに取り付けた装置で眼球の動きを検出し、見ているところを表示したり、パソコンを操作したりすることができます。視線入力装置と聞くと重度障害者用意思伝達装置であると知っておられる方は多いかと思います。実際に文字入力でのコミュニケーションは可能で、中にはSNSを活用し世界の人と交流されている方もいます。

しかし、視線入力装置は文字を使って意思を伝えるだけではありません。文字の理解が困難な方でも、写真やイラストを選択して意思を伝える手段になります。

さらに視線入力装置の活用は大きく広がってきています。子ども達にとって遊びのひとつになり、学習をするための手段にもなります。ちょっとした工夫で、家庭用ゲーム機を視線で操作し、障害の有無関係なく一緒に楽しむこともできるようになっています。重度障害の方でも、実際にその人がどの程度理解しているのか、何に反応しやすいかを、支援者の私達が知る手段にもなるのです。

もちろん視線入力装置は万能ではありませんし、機器の活用は手段のひとつでしかありません。その人に合った手段を選択することが何より大切です。そして、障害により「できない」ことに目を向けるのではなく、どうすればその人が実現したいことを「できる」ようになるかに目を向けましょう。そうすることで私達が支援する人の「できる」世界をひろげていくのではないのでしょうか。



## 『遊び』

カード選択でおもちゃを動かそう

## 『文字の入力』

文字入力でコミュニケーション



## 『学習支援』

視線入力でお勉強

## 『ゲーム支援』

視線入力で家庭用ゲームで遊ぼう



## た す き り し ろ

## 東部島根医療福祉センター

こんにちは。デイケアすずらんさんよりバトンを渡されました、東部島根医療福祉センターです。当センターは、施設入所支援から在宅支援まで行っており、また、対象は小児から成人までの幅広い年齢層の方々に対しリハビリテーションを提供しています。

私たち作業療法士は、「遊びや活動」＝「心身にとっての大事な経験や学習」と捉え、その中でも対象者の方々の個性を大切にしながら、日々の業務に励んでいます。

また、スタッフ其々の強みを活かせるのも、様々な疾患の方がおられる発達分野ならではののではないかと考えています。これからも、「対象者のニーズ」に寄り添い喜んでいただける様、業務に取り組んでいこうと考えています。

次は出雲市民リハビリテーション病院さんよろしくをお願いします。



## 益田赤十字病院

くにさき苑さんからご紹介いただきました。益田赤十字病院です。当院は島根県西部に位置する急性期病院で、理学療法士11名、作業療法士5名、言語聴覚士2名のスタッフが患者様の社会復帰に向けて多職種とチーム一丸になって支援しています。

入院・外来患者様の診療が主になりますが地域医療という背景もあり、住宅改修・福祉用具等の指導で退院前訪問指導も少数ながら介入しております。その他、院内災害訓練への参加、普及事業で救急法・幼児安全法・水上安全法・こころのケアなどで活動している職員もいます。地域医療を守るため多方面で日々業務に励んでおります。これからも地域の皆様のために一生懸命に頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



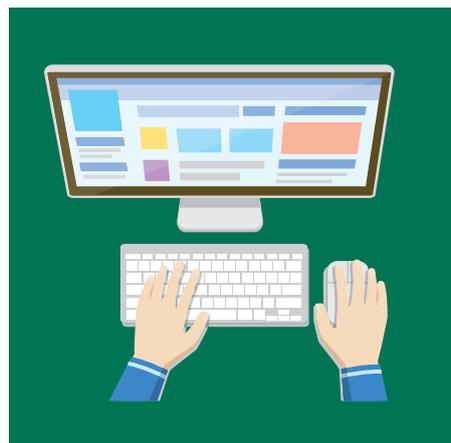
次は介護複合施設まといさんへバトンタッチします、よろしくお願い致します。

# 県士会長コラム

一般社団法人 島根県作業療法士会  
会長 小林 央

今年度ホームページにカレンダー機能を付加して研修会等の予定を確認しやすくなりました。年度下半期は開催方法を都度検討しながら、研修会等の士会活動を再開しております。生涯教育制度に位置付けられる現職者研修会はウェブ開催のメリットを最大限に活かし、東西に長い当県のどこにお住まいでも同じ条件で受講していただけるようになりました。昨年度末に開催を見合わせた厚生労働省指定臨床実習指導者講習会も県内3校の養成校のご協力を得て、後進育成に寄与する人材を輩出する体制が動き始めています。ウェブ研修会には参加者も運営する側ももうしばらく慣れる時間が必要そうではありますが、メリットを活かして会員に還元できる開催方法やコンテンツを模索して参ります。

さて、皆さんは協会ホームページの会員ポータルサイトにはどのくらいの頻度でアクセスしていらっしゃいますでしょうか。2020年6月にリニューアル公開された現在のサイトには会員情報が改訂され、新設項目は「未回答」となっているものがあります。会員の皆様にご登録いただいている情報は、協会が国や他団体への要望を行う際の根拠資料として活用しており、その正確で十全な登録は年次統計資料やアンケート調査の信憑性と有効性の向上にもつながりますので、必ず会員ポータルサイトにログインし、「未回答」項目についての回答、正確な情報の登録にご協力をお願いします。



# ♪ ずぼらハンバーグ ♪

特にこねずに作る時短料理です。お好みで野菜やキノコ類を足して一緒に蒸すとお互いのうまみが染み込んで美味しいですよ。

## 材 料

- ・ひき肉 1パック・塩コショウ 少々
- ・野菜 適量

## 作 り 方

- ①1パックのひき肉を軽く油を引いたフライパンで焼く。(中火)  
※表面に軽く塩コショウをする。
- ②半分くらいの高さまでの焼き色がついたらひっくり返してもう半面を焼いていく。※塩コショウをする。
- ③軽く焼き目がついたら野菜を入れ、フタを閉めて弱火で蒸し焼きにする。(5分程度)
- ④盛りつけし、お好みでソースをかけて完成。

# 男の料理



④のときに野菜類と一緒に蒸し焼きにする事で水分が多く出てきます。そこにコンソメを溶かしてもう少し煮込むことで煮込みハンバーグとして食べる事も出来ますよ。  
是非、試してみてください。



## ジャスミンの ちょっと一言いかしら

### 「こんな時代だからこそ。」

皆様ごきげんよう。「新しい生活様式」をどうお過ごしでしょうか。Web会議の機会が増えてはいませんか？動画・静止画ともに映りの悪いジャスミンよ。イメージは茉莉の花。実物は・・・。

さて、職場にもよるけど、リハビリとはリモートワークが成立しにくい職業よね。こんな世の中だし、誰に何があるのか分かりません。自分が発端で患者様・利用者様・自分の周りの環境・職場を危機にさらしてしまうかもしれない。

だからこそ、配慮・思いやりを持って行動したいわね。でもね、常に気を張って暮らすことは大変よね。自分の手の届く範囲、意識が届く範囲で頑張るわ。まだもう少し先のお話になるけど、見知らぬ土地で食べ歩きして、東京の蕎麦を食べる。そんなことを夢見て今は静かにデリバリーランチ。

そして、リモートの時代だからこそ出来る楽しみや企画も沢山あるわ。例えばこの前まで作品募集をしていたリモートフェスタ。今までとは一味もふた味も違う企画になっているわ。冊子形式にまとめられていて、私も楽しみ！こんな時代だから出来ることもあるわ。そんなこと探していきましょう。

令和3年1月31日 現在 施設数134 会員数531名

一般社団法人 島根県作業療法士会ニュース 年3回発行

□編集担当 白鹿真之介・岩田竜太・足立貴哉・山崎真悟・高木良大・和久利洋平・長谷川藍・山根結衣・石田敦史  
□投稿(400字程度)、提案、情報提供を歓迎します。

発行所 一般社団法人島根県作業療法士会

島根県大田市大田町吉永1428-3 大田市立病院作業療法室内

発行者：小林 央／編集者 岩田竜太・白鹿真之介

印刷：障がい者支援施設 授産センターよつば(〒690-0131 松江市打出町43)